

[第1号議案(1) 2014年度(平成26年度)活動報告]

2014年度活動報告

2014年4月1日～2015年3月31日まで

ヒューマンネットながの
長野市鶴賀七瀬中町 211-15
ゆたかフレンズ 2F
理事長 島崎 潔
電話 026-268-0622

1. 会 員 状 況

- | | | |
|-----------|----|-----|
| (1) 正 会 員 | 個人 | 31人 |
| (2) 応援会員 | 個人 | 26人 |
| (3) 賛助会員 | 個人 | 1人 |

2. 活 動 の 成 果

『法人全体』

道半ばではあるものの、法人設立15年を迎えることができた当期、設立以来当事者の立場から法人活動に尽力された佐野哲司氏(元理事)が急逝されるという悲報が届く。改めて哀悼の意を表するとともに、故人の想いであり、法人のミッションでもある「サービス&アドボカシーの実践」を理事・職員共に再確認する機会となった。

当期は重要事項を諮る総会・理事会とは別に、理事4名(理事長・事務局長・サービス事業部統括管理者及び補佐)から構成する「経営企画会議」を隔週開催。結果、「財務・労務・サービス全般」に渡る「直近の課題解決・情報共有」にスピード感を持って対応することが可能となった。さらに、(後述の)「放課後等児童デイサービスセンター開設準備室」を併設し、情報収集にあたった。

懸案事項であった「認定NPO法人」認可については、前段として9月度に「(仮)認定NPO法人」を申請、付帯事項はあったものの3月度に無事認可を得る。

公益性が高いと認められる基準「PST(パブリックサポートテスト)」(①総収入額のうち、寄付金収入の占める割合が20%以上或いは②実績判定機関における平均で年¥3,000以上の寄付者が年平均100人以上いる状態)のうち、②を有効期間3年間の中でクリアしていく方向である。

『サービス事業部』(主たる事業)

「ヘルパー・ガイドヘルパー派遣事業(実施:長野・上田両ステーション)」

当期も「人員及びサービスの質の確保」を重点課題として取り組んだ。人員の確保については、ハローワーク・県社協人材バンク・福祉の職場説明会等の斡旋媒体を通じ、継続的な情報提供をしているものの、若干名の希望者のみで休職・退職希望者と相まって現状維持が精一杯であった。他方、サービスの質の確保については両ステーションで「①計画相談支援が導入されて以降、精神障害者に対するサービス依頼が増加している。②介護保険に無いサービスメニューで、高齢者に対する同行援護(視覚障害者対象のガイドヘルプ)の依頼も同じく増加している」ことから、精神障害支援事業者や基幹支援センターより外部講師を招いて研修を実施した。また、同行援護従事者要件を充足するため(後に経過措置は延長となるも)常勤及びパート職員10名を従事者養成研修に参加させたり、他分野(落語会の鑑賞等)も含めた各講演会受講を研修扱いとするなど「一定の資質向上に役立った」と分析している。

さらに、「行政（国保連）請求・個人負担請求・給与計算・勤務シフトの各作成についてはそれぞれ別のシステムを使用しているところ。煩雑な事務作業で忙殺され、本来の業務に支障をきたしている」という課題解決に向け、給与計算及び勤務シフトを統合した「新勤怠システム」を導入した。

相談支援（ケアプラン作成）の原則導入が決定している来期以降は、調整役となる「サービス提供責任者」の「人員及びサービスの質の確保」もヘルパー同様、最大の課題。

「計画相談支援事業（実施：相談支援センター）」

6月1日付で指定を受けた計画相談事業（法定）は、これまでの長野市ケアプラン事業からの移行利用者も含め、年度末時点で34名分のケアプランを作成、モニタリングは4名という実績となった。特徴としては、「児童支援センター登録児童が成人となって生活介護・就労支援などを利用する際に、そのまま当法人の相談事業も利用している」ということであった。また、事業者不足を反映してか市からの利用者の割り当てもかなりの数であった。モニタリング期間の決め方や、支援会議の持ち方など制度が充分周知徹底されていないことから少なからぬ混乱も見受けられた。

課題は相談員の増員と質の向上であることに変わりはないことから、来期は専従の所長の配置と初任研修1名の受講を予定している。

「長野市障害児自立サポート事業（実施：児童支援センター）」

「放課後等児童デイサービスセンター事業（実施：開設準備室）」

登録31名。例年通り、平日放課後の一時預かりと土曜及び長期休暇中の日中預かりの2本柱で、就学児を対象にサービスを提供した。恒例の外出活動（お花見・イチゴ狩り・公共交通機関を利用しての外出・ボーリング・そり遊び等）や「りあん」と合同で納涼祭を実施するなどした。

一方、「センターのキャパシティにより、異年齢毎の（ライフステージに沿った）プログラム実施が困難である」「マンツーマン対応故の人員配置の限界」等、利用者ニーズに応えきれない現実がある。現行体制での運営に限界が達したとも言える。よって当期は包括的な児童支援サービスを提供するため「放課後等児童デイサービスセンター開設準備室」

（経営企画会議内）を設置し、指定基準（人員基準・設備基準）の確認や相応の物件探しをスタート。来期を移行期間と位置づけ、28年4月度開所を目指したい。

「生活介護事業（実施：りあん）」

前期より取り入れた「紙すき」も、年末の年賀はがき販売から2月のバレンタインギフトや3月のホワイトデーアソートセットなど季節のイベントにあわせた商品を考案しそれぞれ完売。（関係各所の皆様には牛乳パック回収にご協力いただき、この場を借りて御礼申し上げます。）その他、外出企画では黒姫高原散策や上田の「楽食（バリアフリーレストラン）」で昼食などを実施し、多くの利用者に参加いただけた。また地域活動の一貫として、秋祭りで獅子舞をお願いし、近隣の方々が多数所内を見学された。

来期は新たに2名の利用者が通所される予定で（1日の利用人数も最大で9名となることから）手洗い・洗面所等、施設面の充実が急務である。小規模事業所の特色は生かしつつ、今以上に利用者が安心して快適に過ごせる環境の確保と、多種多様なプログラムや催しを実施していきたい。

「共同生活援助事業（実施：グループホームじょんのび）」

当期は法改正により「共同生活介護（ケアホーム）」から「共同生活援助（グループホーム）」に事業所名を変更。5月及び10月度には各1名の入居者を迎え、4名の定員に達すると共に365日体制を維持。12月～3月度までのうち週2日、日中（通所しない入居者1名に対し）職員を配置した結果、当該日は（人員不足の中）24時間体制となり職員が疲労により欠勤する事態を招いた。（その余波で入居者全員参加の毎月1回の外出を制限せざるを得ない状況となった）一方、個別で支給決定された居宅介護（当法人及び外部）のヘルパーが入浴介

助時に対応することによって、毎日の入浴が可能となった入居者も。

共同生活の場ではあるけれども、来期以降も可能な限り個別ニーズに応えられるよう注意深く関わっていききたい。宿泊可能な職員確保が喫緊の課題。

『法人事業（事務局）』（主たる事業）

「ユニバーサル観光マップアプリ制作事業」

前期、「長野県は全国有数の観光県であり、善光寺に至っては年間 600 万人以上の参拝客が訪れている。そこには障害者や高齢者、お子様連れなど何かしらのハンディキャップを持っている人が存在する。しかし、善光寺周辺には古くからの石畳や砂利道が多く存在し、この情報は通常の観光マップには載っておらず、ハンディキャップを持つ人に必要な情報が提供されていない。トイレや休憩所、駐車場、舗道や店舗のバリアフリー情報を事前に知る事ができれば、現地で容易に探す事ができれば安心して観光を楽しめるのではないだろうか。」というニーズを基に、パソコンやタブレットでバリアフリー情報を収集し、安心して観光を楽しんでもらえるツールになる「観光マップアプリ」を制作した経過があった。その後、「善光寺周辺だけでなく、駅からのアクセスまでを網羅したほうが良いのでは」という意見が挙がり、当期も継続して事業を実施する事となった。（「北陸まちづくり協会」支援金受託）

前期同様、信大付属小学校の協力を得て調査活動を行い、テスト版アプリを県ボラや福祉教育フォーラムなどに出展。3月7日にマスコミをはじめ商店会や行政、障がいや観光関係者、一般の方など30名以上の方が集まる中、完成発表を迎える事ができた。

活動経緯

2014年

- 4月 アプリの内容、調査項目等の検討
- 5月 長野駅～善光寺までのアクセスルートの調査
- 6月 商店会との調整
- 7月 //
- 8月 中央通り商店街調査
- 9月 駅前商店街調査
- 10月 国際福祉機器展視察
- 11月 プレ観光調査
- 12月 調査データの見直し

2015年

- 1月 //
- 2月 アプリ完成発表会の準備
- 3月 アプリ完成発表会、助成金事業報告

（ながのユニバーサル観光マップアプリ <http://unip.info/>）

「長野市障害福祉サービスガイドアプリ制作事業」

長野市で障害者が利用可能な福祉サービスは多種多様にあり、その内容は障害福祉課より無料発行している「長野市障害福祉サービスガイド」という冊子にまとめられている。同誌は長野市のホームページからも閲覧・ダウンロード可能で、日常生活用具の補助や移動支援等（市町村事業は地域によって内容が違うので）貴重な情報源とも言える。一方で、十分周知がされておらず、知っていたとしてもサービスの内容が羅列されているだけで必要なサービスにたどり着くまでが容易では無い。非常に使いづらい冊子となっている。（事業所や支援者についても同様）

上記を踏まえ「容易に、障害者の身体状況・家庭環境・ニーズを Yes, No のフローチャート式で答えていくだけで必要なサービスにたどり着ける」事を目的としたアプリ制作を企画。

（「長野県地域発元気づくり支援金」を受託し、ソフト開発業者に制作委託）

実際に当事者へのヒアリング調査を実施したところ、「障害や生活目的のカテゴリから検索できるシステム」がよいという意見が多数寄せられた。また、「音声読み上げに対応してほしい」「指一本で操作できたらよい」等の意見をいただき、それらを反映したシステムを作成。

当事者3名の方にページ入力を協力して頂き、無事完成に至った。

今後も情報更新作業が必要不可欠であることから継続受託可能なよう、行政に働きかけていきたい。

活動経緯

2014年

4月 支援金申請

5月 //

6月 長野市との調整

7月 ヒアリング調査

8月 //

9月 //

10月 //

11月 システム制作

12月 //

2015年

1月 ページ入力

2月 //

3月 アプリ完成発表会

(長野市障害福祉サービスガイドアプリ <http://hynet.sakura.ne.jp/>)